



書道体験(国際交流フェア)



着物着つけ体験(国際交流フェア)



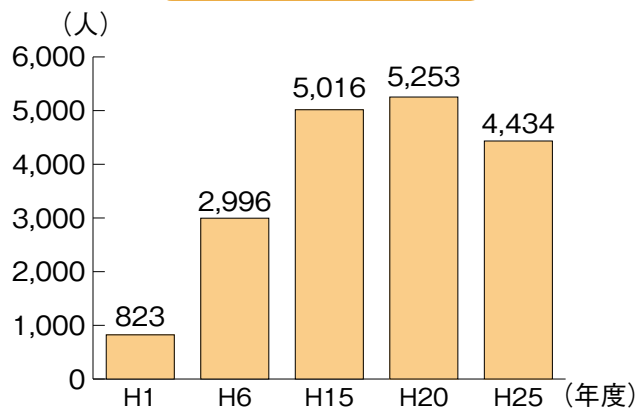
抹茶体験(富士見台地区の新年交歓会)

ともに暮らし、ともに地域をつくる 「多文化共生」のまちづくり

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生活していくことです。

外国人とともによりよい暮らしを送るためには、どうしたらよいのか考えてみましょう。

外国人登録者数の推移



主に、製紙工場などへの就労目的で住んでいる人が多く、そのほかには、留学や研修のために来る人、日本人との婚姻などによって移住する人など、さまざまな理由で生活しています。

●富士市に住む外国人は4434人
(1月末時点)
現在、市内には、総人口の約2%に当たる4434人の外国人が住んでいます(左グラフ参照)。

市内にはどのくらい外国人が住んでいるの？

地区別外国人居住者数(平成26年1月末時点)

年齢区分	地区												
	吉原	伝法	今泉	広見	大淵	元吉原	吉永	浮島	天間	原田	南富士	北富士	須津
16歳以上	412	175	216	283	114	192	94	7	40	61	237	276	102
16歳未満	39	26	32	46	4	19	9	1	5	8	11	31	21
合計	451	201	248	329	118	211	103	8	45	69	248	307	123
年齢区分	地区												
	鷹岡	丘	台富士見	神戸	富士北	富士南	青葉台	吉永北	岩松北	岩松	田子浦	富士川	松野
16歳以上	106	163	238	31	63	222	99	25	87	163	202	87	188
16歳未満	12	11	76	8	8	40	27	2	20	30	39	14	2
合計	118	174	314	39	71	262	126	27	107	193	241	101	190

■各年齢区分の人数の多い上位3地区

(単位：人)

●地区別に見た外国人居住者数
外国人居住者数を地区別に見ると、吉原地区が451人と最も多く、次いで、広見地区が329人、富士見台地区が314人となっています(左表参照)。これらの地区に外国人居住者が多い理由として、公営住宅や雇用促進住宅などがあることや、頼れる友人・知人がいることなどが挙げられます。

外国人と日本人、どう思っているの？

日常生活の中で思っていることを過去のアンケートから見てみましょう。
 ※平成25年度市政モニターアンケート(回答者数97人) 集計結果、国際交流フェア(こ
 とし2月)での外国人市民アンケート(回答者数36人) 集計結果、平成23年発行「富
 士市国際化推進プラン」から一部抜粋。

Q 「富士市が住みやすい」と感じる
 のはどんなところですか？

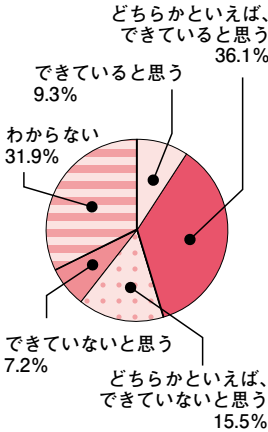
- ・病院や学校などに通訳がいる
- ・外国人への支援をしてもらえる場所
 や情報を入手できる場所がある
- ・日本語の勉強ができるところがあ
 る

Q 生活面で困っていることは？

- ・行政機関などから届く郵便物を読
 むことができない
 - ・学校からの連絡内容がわからない
 - ・子どもが日本語や、学校の授業を
 理解できない
 - ・日本人との交流機会がない
- Q 日本人とつき合っていく上で、望
 むことは何ですか？
- ・日本の習慣などを知りたい
 - ・日本語を学びたい
 - ・母国の文化や習慣を理解してほし
 い
 - ・地域の行事などに参加したい



Q 外国人と共生できていると思いま
 すか？

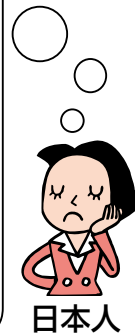


Q 外国人と共生できていないと思っ
 ているのはなぜですか？

- ・外国人との交流の場が少ないから
- ・外国人同士の集まりができている
 気がするから

Q 日本人と共生するために、外国人
 に必要だと思うことは？

- ・日本の文化などを理解すること
 - ・生活ルールを守ること
 - ・地域の行事に参加すること
 - ・日本語を話せるようになること
- Q お互いに歩み寄るためには？
- ・相手を理解し、思いやること
 - ・生活ルールを説明すること
 - ・「やさしい日本語」(◆)を使うこと



地域でできることは何かを考える

私は、約20年間、市の市民相談室通
 訳として、外国人の相談を受けてきま
 した。近年では、富士市で生活し続け
 たいと考える外国人がふえ、相談内容
 も生活に密着した、年金や福祉、児童
 手当など複雑で多岐にわたっています。
 そのような中、外国人は、生活のルー
 ルや言葉の違いなどから、日本人と交
 流することに不安を感じています。子
 どもがいる世帯であれば、子どもが通
 訳代わりになり、地域の人と意思疎通
 が図れますが、そういう世帯ばかりで
 はありません。

そこで、外国人と日本人が上手につ
 き合っていくためには、地域での取り
 組みが大切になります。地区によつて
 は、通訳を配置したり、回覧板文書を
 翻訳したりしているところもあります
 が、ふだんから声かけをし、お互いに
 困っていることなどを聞き、その解決
 策を話し合えるとよいですね。

まずは、地域の中で話し合いや交流
 の場を設け、自分たちの地域では何が
 できるのかを考えることが必要ではな
 いでしょうか。



長年、外国人からの相談
 を受けてきた
 うちやま
 内山 まゆみさん
 (厚原)



◆ 「やさしい日本語」とは、
 外国人や子どもにもわかりやすい、
 簡単な日本語のこと。
 ・土足厳禁→靴を脱いでください
 ・震度→揺れの大きさ など